

第3・4学年複式 国語科学習指導案

授業日 平成30年7月10日(火) 4校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二
会場 中学年3組教室

1 単元名

調べて伝えよう～みんなの花火、募金してから見るか?～

2 本単元の価値

本単元は「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」といった一連の「書くこと」の学習過程(以下、文章化過程)を重視したうえで、次に示す学習指導要領の第3学年及び第4学年の指導事項ア・イ・ウ、言語活動例アを受けて設定した。

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
 - イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
 - ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

本単元は、「書くこと」における「説明・報告」の系統として位置付けている。考えたことや調べて分かったことの事柄を整理し、資料を用いたり形式を工夫したりして、分かりやすく書く力を身に付けることをねらいとしている。本単元には、大きく次の二点の価値がある。

一点目は、子どもが自分の考えを書いて伝えたい題材だという点である。中学年3組の子どもは、総合的な学習の時間(以下、虹の輪)において、様々な人たちの募金で成立している「みんなの花火エボリューション」(以下、エボ花火)に携わる学習を継続している。特に、4年生は、昨年度の経験があるため、今年度も昨年度を超える取組にしていきたいと意気込んでいる。3年生は、4年生に触発され、自分たちも同じように活動してみたいと意欲的である。そこで、今年度も「きれいな花火を打ち上げたい」「エボ花火を見ているすべての人を笑顔にしたい」という思いから、古町・附属新潟小学校・附属新潟中学校・万代の4か所で募金活動を行うことを決めた。ゆえに、中学年3組の子どもにとって、募金をたくさん集められるかどうかは、エボ花火の打ち上げに直結する喫緊の課題といえる。学級の全員の考えや思いに関する題材だからこそ、書き表す価値がある。

二点目は、相手の状況に合わせた文章の構成が理解できる点である。本単元では、全校の友達といったある程度顔の見える相手や街の人といった顔の見えない相手に向けてレポートを書く活動である。そのため、相手の状況に合わせて、収集した情報を取捨選択し、どのように書けば伝わりやすいのかという文章の構成を学ぶことができる。なお、国語科の改訂の趣旨及び要点には、全国学力・学習状況改善調査等の結果から、「文の構成を理解したり表現の工夫をとらえたりすることに課題がある」と指摘されている。子どもは、エボ花火に対する自分の考えを羅列するのではなく、「自分の考え(思い)」「考えの理由」「調べて分かったこと」等の段落をつくることにより、相手の状況に合わせて、それらの段落をどのような順序で並べるかという文章の構成について理解することができる。

3 本単元で目指す姿

文章化過程の往還を通して、エボ花火についての自分の考え(思い)を明確に書き表す子ども

具体的には、自分のレポートに必要な情報を再取材で補い、補った情報を取り入れて再構成するなど、文章化過程を行きつ戻りつすることを通して、言葉による「見方・考え方」を働かせ、自分の考えとそれを支える理由や事例とを整理して書き表す力等の資質・能力を發揮し、エボ花火についての自分の考え(思い)と調べて分かったこととを区別して、募金を呼びかけるレポート(本案pp.5-6参照)を書き表す子どもである。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全9時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、6月中旬に行った「みんなで新聞を作ろう」の学習において、言葉の特徴や使い方に関する知識・技能(①知識・技能)、書き表し方を工夫する力(②思考力・判断力・表現力)、思いや考えを伝え合おうとする態度(③態度)等を發揮し、社会科見学についての新聞を書いた。しかし、發揮した資質・能力を十分には自覚していない。また、資質・能力の定着までには、至っていない。

まず、単元の導入として、「エボ花火を打ち上げるための募金を呼びかけるレポートを作ろう」という言語活動を提示する。加えて、募金活動の場所(古町・附属新潟小学校・附属新潟中学校・万代)において、募金を呼びかけるレポートを4つのグループで分担して作成することを説明する。昨年度の経験がある4年生は、言語活動を提示されると、書く材料をある程度すぐに集めることができる。しかし、昨年度の経験がない3年生は、言語活動を提示されただけでは、書く材料を収集できない子

どももいる。そこで、書く材料を収集させるために、一週間程度の取材期間を設定する。一人一人に付箋紙の束を配付し、エボ花火について調べて分かったことや考えたことなどを付箋紙に書き溜めるように指示をする。その際、「自分の考え(思い)」「考えの理由」「調べて分かったこと」等のまとまりで付箋紙に記述させる。このように指示をすることで、子どもがレポートの構成を考える際に、付箋紙一枚につき一つの見出しとして並べることができるため、レポートの構成が考えやすくなる。

次に、取材期間が終了した後、取材で収集した書く材料をどのように活用するかを問う。子どもは、これまでの学習経験から、事柄を整理するための思考ツールであるタブレット端末のアプリ(以下、Post-it Plus)を活用して、レポートの構成を考える。この段階における構成は、古町にいる方、附属新潟小学校の友達、附属新潟中学校の生徒、万代にいる方というレポートの読み手と募金をしてもらいたいという目的とに合致しているとはいえない。

そして、初稿を記述させる。子どもは、タブレット端末(以下、Word)を活用して、初稿を記述する。しかし、初稿は、自分の考えとそれを支える理由や事例とが整理されておらず、内容的にも乏しい(C0)。これで、文章化過程における一回目の「考えの形成、記述」まで達したことになる。

働き掛け1

初稿を読み合う場を設定し、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートかを問う。

言葉の使い方に着目した問いをもたせるための働き掛けである。

まず、初稿を読み合う場を設定する。自分のレポートと友達のレポートとを比較させるためである。子どもは、タブレット端末上で共有されてある学級全員のレポートに目を通す。

次に、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになっているかを問う。これは、言葉による「見方・考え方」を引き出すためである。子どもは、前述の初稿の比較から得た様々な気付きがあるため、相手・目的に合致しているレポートかを問われることにより、相手・目的と自分のレポートとが関係付き始める。そして、「ぼくのレポートは、古町にいる方が募金をしてくれるレポートになっているか、自信がありません」「私のレポートは、附属新潟小学校の人が募金をしたいと思ってもらえるか、よく分かりません」などと、自分のレポートに対して疑問をもったり、不安を抱いたりする。

そして、「どのように書けば読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになるか」「パワーアップさせたレポートを書きたい」などと、言葉による「見方・考え方」を働かせ始め、問いをもつ。

その後、発言をまとめ、「読んでくれる人が募金をしてくれるためには、どのようなレポートを書か(作るか)」と学習課題を設定する。これで、文章化過程における一回目の「共有」まで達する。

働き掛け2

代表的なレポートと意識調査の資料とを提示し、どこを直せば読み手に伝わるのかを問うた後、これからしていきたいことを問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

学習課題を設定した後、代表的なレポートと意識調査の資料とを提示する。相手の状況に応じたレポートの構成をつかませるためである。子どもが初稿で選択していた見出しを並べたレポートを教材文として採り上げ、代表的なレポートであるところをえさせる。そのうえで、レポートの読み手である古町にいる方と附属新潟小学校の子どもとを抽出した意識調査の資料を提示する。この資料から、子どもは、古町にいる方が附属新潟小学校の子どもよりエボ花火をよく知っていることを理解する。

ここで、代表的なレポートを古町に配布すると設定し、どこを直せば古町にいる方に伝わるのかを問う。再取材及び再構成を促すためである。子どもは、レポートの読み手が古町にいる方であれば、代表的なレポートのどこを直せば募金をもらえるレポートになるのかを考え、全体で協議する。そして、「今年のエボ花火の見所や石田さんたちの思いを付け足せば、すごい花火を見てみたいなど思ってくれて、募金してくれるからです」などと、レポートに再取材や再構成を施せばよいと気付く。

このような子どもに、これからしていきたいことを問う。これは、言葉による「見方・考え方」を明確化するためである。子どもは、言葉による「見方・考え方」が明確にし、課題を解決するために再取材や再構成をして書こうとする態度(③態度)を発揮して、「花火の説明が具体的ではないから、図書で花火の歴史を調べる」「募金をしようと思った理由がよく伝わらないから、4年生に昨年の活動の様子をインタビューして聞いてみよう」などと、必要な情報を補ったり、構成し直したりすればよいと課題解決の見通しをもつ。どのような情報をどのように活用すれば課題解決できるのかと焦点付くため、相手・目的と自分のレポートとが関係付き、言葉による「見方・考え方」が明確になる。

働き掛け3

再取材を行う場を設定し、第二稿の見出しの順序と判断した理由とを問う。

自分のレポートに必要な情報を収集・整理させ、第二稿を記述させるための働き掛けである。

課題解決の見通しをもった子どもに、再取材を行う場を設定する。自分のレポートに必要な情報を収集させるためである。再取材の方法は、図書、インタビュー、アンケート、インターネット、新聞記事の5つとする。子どもは、これらの方法からいくつかを選択し、自分のレポートに必要な情報を収集する。その際、収集した情報を付箋紙に書いたり、ノートにまとめたりするように指示をする。

このような再取材を行った子どもに、第二稿の見出しの順序と判断した理由とを問う。収集した情報を整理させ、第二稿の構成を考える際の手掛かりをつかませるためである。子どもは、事例を示したり、結論を述べたりするなどの段落の役割に関する知識・技能(①知識・技能)を発揮して、「私は、『募金を行う理由』『様々な方の思い』『調べて分かったこと』『今年のエボ花火の見所』『エボ花火についての私の考え(思い)』の順番で見出しを並べます。どうしてかという、エボ花火をある程度知っている古町の方に募金を行う理由から伝え、私たちの活動に興味をもって、募金してくれると考えたから」などと、第二稿の構成を考え出す。その後、Post-it Plusを使い、付箋紙を動かし、考え出した第二稿の構成を確かめる(ツール活用能力)。このような子どもに、Wordで第二稿を記述するように指示をする。子どもは、Post-it Plusを基に、初稿を練り直し、第二稿をWordで記述する。これで、文章化過程における二回目の「考えの形成、記述」まで達することになる。

従来の「書くこと」の指導において、文章の構成を考えさせる際、複数の短冊カードを作らせ、それらを動かすことで構成を考えさせていた。同じ内容の短冊カードを複数作る手間が生じるため、思うように短冊カードを書いたり、操作したりすることができない子どもの姿が見られた。そこで、Post-it Plusを活用させて、構成を考えさせるようにする。子どもは、Post-it Plusを使うことにより、タブレット端末上で付箋紙を容易に動かすことができるため、複数の構成をも考え出すことができる。

働き掛け4

第二稿を検討する場を二段階で設定し、最終的にどのようなレポートにするかを問う。

自分の考えとそれを支える事例とを整理して記述させるための働き掛けである。第二稿を記述できた子どもに、第二稿を二段階で検討する場を設定する。レポートを読んでもくれる相手及び募金をしてもらいたい目的と文章とが合致しているかを吟味させるためである。二段階とは、「3年生と3年生、4年生と4年生」での検討を一段階、「3年生と4年生」での検討を二段階とする。通常、複式学級では、下学年が上学年から教えてもらう、上学年が下学年に教えるという構図になる。しかし、このような異学年での検討のみを行うと、3年生は常に受け身の姿勢となり、4年生は教えてあげることが上達しない。そこで、同学年での検討を最初に取り入れる。これにより、二段階目の検討において、下学年も上学年も自分の意見を固めてから検討に臨める。複式学級のよさを生かし、このように二段階の設定をすることには、検討の質を深めるねらいがある。子どもは、「新聞や取材ノートから様々な方の思いを取材し直して詳しく書きました。石田さんを始め、様々な方の思いが一つになることで、きれいなエボ花火が打ち上げられます。だから、様々な方の思いを古町にいる方に伝えることで、たくさん募金してくれると考えました」などと、第二稿の構成や内容を友達に説明する。説明を聞いた友達は、「佳輝さんのレポートには、『募金活動を行う理由』の見出しがあるけれど、どこが理由なのかよく分かりません。万代にいますの方に理解してもらえるように、私たちが募金活動を行っていることには、どのような理由があるのかをはっきりと書いた方がよいと思います」などと、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになっているかという視点で助言する(協働性)。

第二稿を検討した子どもに、最終的にどのようなレポートにするかを問う。最終的な判断を促すためである。子どもは、友達からの助言を基に自分の考えとそれを支える事例とを整理して書き表す力(②思考力・判断力・表現力)を発揮し、最終的なレポートを書き表す。このようにして、文章化過程の往還を通して、エボ花火についての自分の考え(思い)を明確に書き表す子ども(Cn)となる。

働き掛け5

観点を提示して学習を振り返る場を設定する。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。最終的なレポートを書き表した子どもに、「これまで学習で、できるようになったことや分かったこと」という二つの観点を提示して、学習を振り返る場を設定する。子どもは、学習過程を振り返り、例えば、「図書、インタビュー、アンケート、インターネット、新聞記事から必要な情報を再取材して補い、Post-it Plusを使って情報を整理して再構成していったことがよかった」(③態度)、「レポートを読んでもくれる人がエボ花火について、どれくらい知っているかによって、見出しの並べ方を変えればよいということが分かった」(①知識・技能)、「エボ花火についての自分の考え(思い)と募金活動を行う理由や調べて分かったことを見出しごとに整理して記述することができた」(②思考力・判断力・表現力)などと、発揮した様々な資質・能力を自覚する。その後、子どもはWordでレポートの体裁のみを修正し、仕上げる。最後に交流会を行い、互いのレポートのよいところを伝え合う。

7 本時の構想 (本時 8/9時間)

(1) ねらい

第二稿を二段階で検討することを通して、エボ花火についての自分の考え(思い)と調べて分かったこととを整理して、最終的なレポートを表出することができる。

(2) 主張(展開) 45分

このような子どもに(C0)

- 文章の構成を考える際にPost-it Plusを使うと、自分の考えが整理しやすくなるという有効性を感じている。文章を記述する際にWordを使うと、加除修正などが容易になると感じている。
- 前単元「みんなで作る新聞」の学習において、育成される資質・能力を発揮し、社会科見学についての新聞を書いている。
- エボ花火の募金活動を呼びかけるためのレポート作りに向けて、「自分の考え(思い)」「考えの理由」「調べて分かったこと」等を付箋紙に書き溜め、Post-it Plusに蓄積している。
- Post-it Plusを基に、Wordで初稿を記述している。
- 初稿は、自分の考えとそれを支える理由や事例とが整理されておらず、内容的にも乏しい。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 初稿を読み合う場を設定し、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートかを問う。
 - ・指示「これまでの学習で、初稿が完成しましたね。それでは、タブレット端末を使って、みんなの初稿を読み合ってみましょう」
 - ※ タブレット端末のロイロノートに全員のレポートを共有させておき、読ませる。
 - ・発問「皆さんのレポートは、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになっていますか」
 - ・指示「ワークシートを配ります。皆さんの考えと理由をワークシートに書きましょう」
 - ※ 挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。
 - ※ 「このままのレポートではよくない、自信がない、不安だ」「相手と目的と合っていない」「レポートを書き直したい」等の発言があった場合、挙手を求め、同意を確認する。

※ 子どもの発言を整理して、学習課題「読んでくれる人が募金をしてくれるためには、どのようなレポートを書くか」を設定する。

このようになり (G1)

- 自分のレポートと友達とのレポートとを読み比べることで、言葉の使い方に着目した問いをもつ。
 - ・ ぼくのレポートは、古町にいる方が募金をしてくれるレポートになっているか、自信がありません。どのように書けば読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになるかな。
 - ・ 私のレポートは、附属新潟小学校の人が募金をしたいと思ってもらえるか、よく分かりません。パワーアップさせたレポートを書きたいです。
 - ・ ぼくのレポートは、よくないと思います。このままでは、附属新潟中学校の人が募金をしようとは思いません。敦哉さんみたいなレポートを書きたいです。
 - ・ 私のレポートは、由香さんのレポートと比べると、調べて分かったことが詳しく書けていないので、万代にいる方が募金をしてくれないかもしれません。レポートを書き直したいです。
- ※ のように、相手に募金をしてもらいたいことが伝わらないレポートなのではないかという疑問や不安に関する発言、同意の挙手、ワークシートへの記述が見られたら、「見方・考え方」を働かせ始め、問いをもった姿と見なし、通過とする。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 代表的なレポートと意識調査の資料とを提示し、どこを直せば読み手に伝わるのかを問うた後、自分のレポートに必要な情報を問う。
 - ・ 指示「まず、皆さんに、ある代表的なレポートの一部を見せます。よく読みましょう」
 - ・ 指示「次に、古町を歩いていた方と附属新潟小学校の人たちのエボ花火に対する調査結果の資料を見せます。よく読みましょう」
 - ・ 発問「古町の方が募金をしてくれるためには、このレポートのどこを考え直しますか。なぜ、そこを考え直そうと思ったのですか」
 - ・ 指示「ワークシートを配ります。皆さんの考えと理由をワークシートに書きましょう」
- ※ 挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。
- ※ 取材（情報の収集）と構成（構成の検討）とに分け、子どもの発言を整理して板書する。
 - ・ 発問「読んでくれる人が募金をしてくれるレポートにするためには、皆さん、これからどのようなことをしますか。それは、なぜですか」
 - ・ 指示「ワークシートを配ります。皆さんの考えと理由をワークシートに書きましょう」
- ※ 挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。

このようになり (G2)

- 学習課題に対する見通しをもつ。
 - ・ 意識調査の資料から、古町にいる多くの方は、エボ花火を知っていると考えられます。しかし、エボ花火が毎年進化していることや石田さんたちの思いまでは、あまりよく分かっていないと思います。だから、今年のエボ花火の見所や石田さんたちの思いを付け足せば、すごい花火を見てみたいなと思ってくれて、募金してくれるからです。
 - ・ レポートの始めには、調べて分かったことがあります。しかし、これでは、古町にいる方には突然すぎて、よく分かってもらえないと思います。募金活動を行う理由を始めにもってくると、古町にいる方がそういう理由で頑張っているんだと納得してくれて募金してくれるからです。
 - ・ ぼくは、新聞記事でこれまで中三が行ってきたことを調べ直します。なぜなら、ぼくたちの活動をあまりよく知らない古町にいる方にも中三の取組を伝えることで、募金をしてくれると思うからです。Post-it Plusを使って、項立ての順番も変えてみます。
 - ・ 私は、インターネットで今年のエボ花火の見所を取材し直します。理由は、今年のエボ花火の見所が分かれば、附属新潟小学校の友達がエボ花火を見たいと思ってたくさん募金をしてくれると考えたからです。読み手にひきつけて伝えるために、今年のエボ花火の見所をレポートの始めにもってきます。
 - ・ ぼくは、取材ノートからエボ花火の打ち上げに携わる石田さんの思いをまとめ直します。どうしてかという点、ぼくたちの思いだけでなく、石田さんの思いも分かってもらえれば、附属新潟中学校の人たちがエボ花火のよさを知り、募金をしてくれると思ったからです。石田さんの思いを調べて分かったことの前に入れます。
 - ・ 私は、図書でエボ花火の歴史をもっとよく調べます。理由は、エボ花火の歴史が具体的ではなく、エボ花火の歴史をきちんと伝えれば、万代にいる方が花火をもっと楽しく見ることができると思ったからです。Post-it Plusを使って、構成を考え直してみます。 ☆国語科③
- ※ のように、代表的なレポートに対して、再取材で必要な情報を補ったり情報を整理して再構成したりすればよいといった発言及びワークシートへの記述が見られたら、「見方・考え方」を明確にした姿とする。
- ※ のように、自分のレポートにおいて、再取材で必要な情報を補ったり情報を整理して再構成したりすれば課題解決ができるといった発言及びワークシートへの記述が見られたら、再取材や再構成をして書こうとする態度を発揮し、課題解決の見通しをもった姿として、通過とする。

このように働きかけると【働き掛け3】

- 再取材を行う場を設定する。
 - ・ 説明「必要な情報を取材し直したり、レポートの構成を考え直したりすれば、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートが書けそうだと見通しをもちましたね」
 - ・ 指示「それでは、図書、インタビュー、アンケート、インターネット、新聞記事から、自分のレポートに必要な情報を集めましょう」

- ※ ペアやグループで話し合いながら進めてもよいこととする。
- 第二稿の見出しの順序と判断した理由とを問う。
 - ・発問「皆さんは、どのような順番で見出しを並べますか。なぜ、その順番にするのですか」
 - ・指示「ワークシートを配ります。見出しの順番とその理由をワークシートに書きましょう」
- ※ 挙手を求め、子どもに発表させる。理由が不明確な場合は、問い返す。

このようになり (G3)

- 自分のレポートに必要な情報を収集する。
 - ・図書で、エボ花火の歴史について調べ直したよ。
 - ・4年生に昨年の活動の様子をインタビューしてみました。
 - ・全校のみんながエボ花火のことをどれくらい知っているかについてアンケートをとりました。
 - ・インターネットから、今年のエボ花火の見所は、開港150周年とのコラボだと分かりました。
 - ・新聞記事に、エボ花火の特集が載っていて、日程や打ち上げ場所を調べることができました。
- 初稿を再構成し、第二稿を記述する。
 - ・私は、「募金を行う理由」「様々な方の思い」「調べて分かったこと」「今年のエボ花火の見所」「エボ花火についての私の考え(思い)」の順番で見出しを並べます。どうしてかというところ、エボ花火をある程度知っている古町の方に募金を行う理由から伝えようと、私たちの活動に興味をもって来て、募金してくれると考えたからです。
 - ・ぼくは、「調べて分かったこと」「今年のエボ花火の見所」「様々な方の思い」「募金を行う理由」「エボ花火についてのぼくの考え(思い)」の順番で見出しを並べます。理由は、エボ花火についてあまりよく知らない小学校の友達にエボ花火についての基礎的な情報から伝えようと、エボ花火のことを理解してくれると、募金してくれると考えたからです。 **★国語科①**
- ※ のように、収集した情報の活用に関する発言、ワークシート及びPost-it Plusへの記述が見られたら、事例を示したり、結論を述べたりするなどの段落の役割に関する知識・技能を発揮した姿とし、通過とする。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 第二稿を検討する場を二段階で設定する。
 - ・説明「皆さん、昨日の学習で、第二稿を記述できました。～さんは、読んでくれる人が募金をしてくれるレポートとするために、友達と話したいと考えていたのですね」
- ※ 学習課題とレポートの読み手とを確認する。
 - ・指示「これから、第二稿をペアの友達と検討します。まずは、3年生と3年生、4年生と4年生のペアでの検討です。読んでくれる人が募金をしてくれるレポートになっているかどうか、互いにアドバイスしましょう」
- ※ 同学年での検討後、同様に、異学年で検討するように指示をする。
- ※ ペアでの検討に対して机間指導をして回る。必要に応じて理由を問い返す。
- ※ 二段階での検討後、同じ読み手グループで検討したいという声が挙がった場合、認める。
- 最終的にどのようなレポートにするかを問う。
 - ・発問「二回の検討を受けて、最終的にどのようなレポートに仕上げますか」
 - ・指示「必要な人は、赤を入れてみましょう」
 - ※ 「Wordで体裁を整えたい」などといった声が挙がった場合、次時に行うことを伝える。
 - ※ 子どもを広い場所へ移動させた後、挙手を求め、第二稿に赤を入れた箇所を発表させる。
 - ※ 発揮した資質・能力を即時的にフィードバックしたり、価値付けたりする。

このようになる (Gn)

- 第二稿を二段階で検討する。
 - ・私は、新聞や取材ノートから様々な方の思いを取材し直して詳しく書きました。石田さんを始め、様々な方の思いが一つになることで、きれいなエボ花火が打ち上げられます。だから、様々な方の思いを古町にいる方に伝えることで、たくさん募金してくれると考えました。
 - ・ぼくは、「調べて分かったこと」「今年のエボ花火の見所」「様々な方の思い」「募金を行う理由」「エボ花火についてのぼくの考え(思い)」の構成が全校のみんなが一番よく伝わると思いますが、「調べて分かったこと」を始めにもってきた理由は、全校のみんなは、エボ花火についてあまりよく分かっていないので、エボ花火について分かりやすく伝えたい方が、エボ花火の魅力を分かってもらえると思ったからです。
 - ・佳輝さんのレポートには、「募金活動を行う理由」の見出しがあるけれど、どこが理由なのかよく分かりません。万代にいる方に理解してもらえるように、私たちが募金活動を行っていることには、どのような理由があるのかをはっきりと書いた方がよいと思います。
 - ・香澄さんのレポートは、始めに「募金を行う理由」があって、中には「様々な方の思い」や「調べて分かったこと」が詳しく書かれてあるからよく分かります。このレポートだと、エボ花火について知っている人が多い古町の方が募金してくれると思います。
- エボ花火についての自分の考え(思い)と調べて分かったことを整理して、最終的なレポートを記述する。

〈最終稿 (Gn)〉 エボ花火に込めたぼくたちの思い 附属新潟小学校4年3組 井口 佳輝

1 ぼくたちが募金活動を行う理由

ぼくたちは、去年、エボ花火を打ち上げるための募金活動を行いました。古町にいらっしゃった方や附属新潟小学校の全校の人たちからたくさんの募金をしてもらったことで、きれいな花火を打ち上げることができました。花火のことを多くの人に知ってもらい、花火を見ている人を笑顔にしたいので、今年も募金活動を行うことに決めました。

2 エボ花火の打ち上げに携わる様々な方の思い

エボリユーションの打ち上げ実行委員会の石田さん、花火師の小泉さん、当日のアナウンスをする新田さんから授業でお話を聞きました。石田さんは、「花火にはいろいろな人が携わっているから成り立っている」という思いを大切にされていました。また、小泉さんには、「祭りには続けようと思えば続かない。だから、続けるんだ」という強い思いがあります。皆さんは、このような人たちの思いをどのように感じますか？たくさんの人の思いが一つになるのが、みんなの花火エボリユーションなのです。

3 調べて分かったこと

(1) 新潟花火の歴史

新潟まつりのルーツは、4つの祭りにあります。新潟まつりは、住吉祭、商工祭、川開き、開港記念祭という歴史のある4つの祭りが一つとなり、昭和30年に第1回がスタートしました。エボ花火は、この4つの祭りのうち、川開きに関係します。川開きと呼ばれていた花火は、明治19年に架設された初代萬代橋の一部にごさを敷き詰め、観覧席とし、下流から打ち上げられたことから始まりました。戦前には、三尺玉も打ち上げていました。ちなみに、現在のような8月上旬の打ち上げになるのは、昭和58年からです。新潟花火には、このような歴史があります。

(2) 大型スターマイン「エボリユーション」の誕生

大型スターマイン「エボリユーション」は、政令指定都市移行記念花火として2007年から始まりました。長岡まつりで打ち上げられている「フェニックス」と同タイプの大型スターマインです。2008年からはHannaさんの「夢花火」の音楽に合わせて打ち上げられています。

4 今年のエボ花火の見どころ

今年のエボ花火は、開港150周年記念花火となっています。今までに見たことのない花火が次々と打ち上げられます。最後に打ち上げられる開港150周年記念マーク花火がおすすめです。

5 エボ花火についてのぼくの考え(思い)

ぼくは、エボ花火について調べる活動を通して、ますますエボ花火が好きになりました。魅力がたくさん詰まった花火だと思います。だから、エボ花火を新潟のよい伝統として、これから先もずっと残していきたいです。そのためにも、皆さん、募金をよろしくお願いします。

☆ 調べるときに使った本

☆国語科②

※ 「新潟の花火2018」(2018.6.10)新潟日報社「新潟花火の歴史」(2016.6.17)附属新潟社のように、「自分の考え(思い)」と「調べて分かったこと」とに関する見出しに合った内容を記述していること、二段階での検討を受けて内容や構成の加除修正を赤で加えていることの二点セットで書き表していたら、自分の考えとそれを支える事例とを整理して書き表す力を発揮したと姿とし、表れありとする。

このように働きかけると【働き掛け5】

○ 観点を提示して学習を振り返る場を設定する。

- ・ 指示「これまでの学習で、できるようになったことや分かったことを、ワークシートに書きましょう」

このようになる (G5)

○ 学習を振り返り、様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚する。
・ 凶書、インタビュー、アンケート、インターネット、新聞記事から必要な情報を再取材して補い、Post-it Plusを使って情報を整理して再構成していったことがよかったです。☆国語科③
・ レポートを読んでくれる人がエボ花火について、どれくらい知っているかによって、見出しの並べ方を変えればよいということが分かりました。☆国語科①
・ エボ花火についての自分の考え(思い)と募金活動を行う理由や調べて分かったことを見出しごとに整理して記述することができました。☆国語科②

※ 上記のように、課題解決した過程を振り返り、発揮した資質・能力に関する記述のいずれかが見られたら、発揮した資質・能力を自覚している姿とする。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC_nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、のようにより、「自分の考え(思い)」と「調べて分かったこと」との見出しに合った内容を記述していること、二段階での検討を受けて内容や構成の加除修正を赤で加えていること、二点セットで書き表せたかどうかを、発言、ツール、ワークシートの記述、レポートから検証する。
- ② 働き掛け1・2を受けて、のようにより、想定した言葉による「見方・考え方」を働かせていたかどうかを、発言、同意の挙手、ワークシートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け2・3・4を受けて、のようにより、想定した資質・能力を発揮していたかどうかを、発言、ツール、ワークシートの記述、レポートから検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、のようにより、想定した資質・能力を自覚していたかどうかを、発言、ワークシートの記述から検証する。